

綿のロマン

綿はインドや中南米の熱帯・亜熱帯の地域で、数千年の昔から人間の手で営々と栽培されてきました。この間、無数の人々の努力と研究により様々に改良され私たちの暮らしに欠かせないものとして重要になった自然の恵みによる素晴らしい贈物といえます。綿はコットンとして衣料、寝具の分野で、私たちの健康で快適な素材として必需品とされています。



綿の花

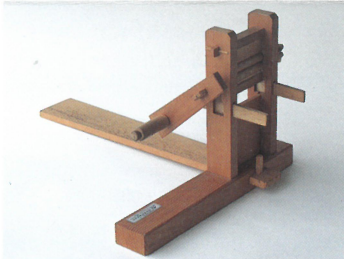


コットンボール

綿糸をつくる

◆綿繰り

綿繰り機で綿繊維の中の種を取ります。



綿繰り機

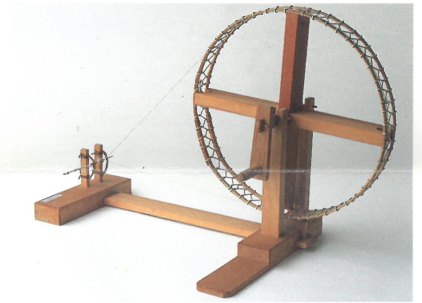


◆綿打ち

綿繰り機で種から引き離れた繊維は不均齊ですから綿打ち器でよくほぐして均一な状態にします。



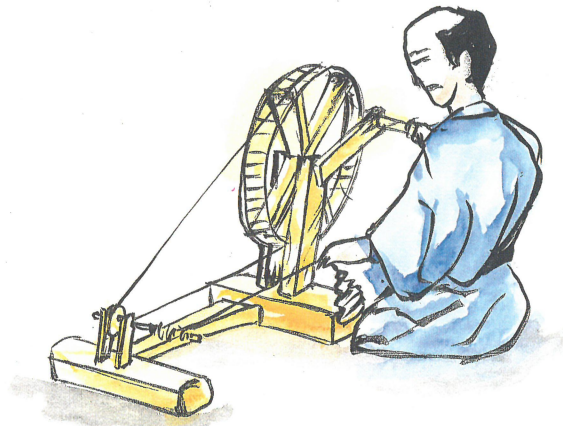
唐弓



糸車

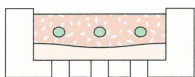
◆糸紡ぎ

綿打ちをした綿繊維を糸車で綿繊維を引き伸ばしたり、よりをかけたりに糸を作っていきます。



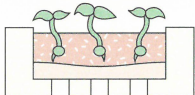
■棉の栽培

1. 種まき



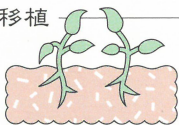
日当りのよい場所に床蒔とし、覆土は種子の厚みの約3倍が適当。やせ地では元肥が必要。

2. 灌水



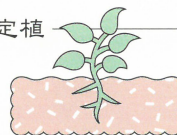
灌水、細めのジョロで行う。多くやりすぎるとよくないので、2日に1度ぐらいが適当。

3. 移植



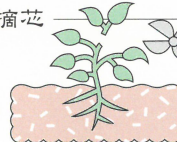
発芽後2週間以内にする。本葉が2~3枚になったら、約10cmくらい間隔をあけて移植する。

4. 定植



本葉が5~6枚になった頃、元肥を施してある予定地に株間30cmに植え込み、十分に灌水をする。

5. 摘芯



棉の木は、放っておくと150cmぐらいまで伸びる。日本では30~50cm程になるように、摘芯を行い横に枝を張らせるようにする。

6. 開花



開花から約50~60日ほどで青い実が大きくなり、少しずつ先が割れ、やがてははじめて白い繊維があふれ出す。

平暖地標準	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき												

■ 春まき ■ 植えかえ ■ 開花